

深

海

から見える  
沼津の未来

## 戸田から始まった研究と ぬまづの宝

広報ぬまづでは、毎年、一年の始まりに沼津にゆかりの深い著名人や有識者と市長が語り合う市長新春対談をお届けしています。

今年の対談では、戸田で長年にわたり深海魚の研究と普及活動を続けている、東京大学大気海洋研究所海洋生物資源部門資源生態グループ助教の猿渡敏郎さんをお迎えしました。

日本一深い駿河湾に面する沼津。その海には、まだ知られていない魅力が詰まつた「深海」という自然の宝があります。近年、深海魚を切り口にした取組が注目され、沼津の新たな魅力として全国から関心が寄せられています。

深海という未知の世界を通して、沼津の海が秘める魅力と可能性を未来へどうつないでいくかについて語り合いました。

【市長】 明けましておめでとうございます。今日は深海魚の研究者である猿渡先生に戸田にお越しいただき、沼津市駿河湾深海生物館を訪れた後、重要な文化財松城家住宅にやってきました。この場所で深海魚を通じた海の魅力についてじっくりお話を聞かせていただきたいです。猿渡先生には深海生物館を平成29年にリニューアルした際に監修をしていただきました。それ以前から、戸田とは深いつながりがあると伺っています。

【猿渡】 はい。戸田は私の魚類学者としての出発点です。大学時代、沼津で研究活動をしていて、戸田のトロール船に乗せてもらい、研究に必要な魚を提供していただきました。東京大学大気海洋研究所の助手になってから、今この研究の柱であるアオメエソの調査のため戸田に通つようになつたんです。

【市長】 そうなんですね。アオメエソつてメヒカリのことですよね。

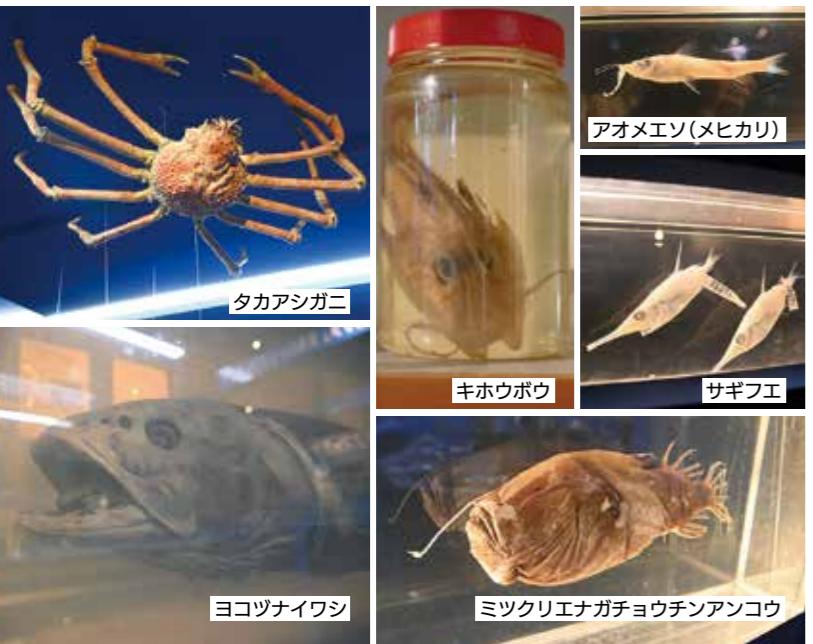
【猿渡】 メヒカリは生態に謎が多いです。黒潮に乗つて移動し、日本沿岸の海底で育ち、産卵のため回遊するところまでは分かっていますが、成熟した親魚がどこで産卵しているかは未だに謎なんですよ。

【市長】 それは知りませんでした。深海生物館には先生の研究の一端に触られる標本の展示がありますよね。

【猿渡】 はい。展示品は単なる標本ではなく学術資料ですから、番号札を付けたまま展示しています。深海での姿に近づけるため、メヒカリは海底で休息する姿、サギフエは斜め下を向いて泳ぐ姿にしているんですよ。

【市長】 タカアシガニの展示も迫力があります。

【猿渡】 あの展示は試行錯誤しました。海底にいるような姿を再現するため、上から吊るしてるんですよ。また、卵から育てた成長段階の標本も展示して



【市長】 他にも注目してほしい展示はありますか？

【猿渡】 ミツクリエナガチョウチンアンコウですね。オスがメスに寄生する珍しい魚で、その状態の標本を展示しています。また、まるで海底を走る装甲車のような形をしたキホウボウも見てもらいたいです。

【市長】 観察すると面白い発見がありますね。

【猿渡】 希少な展示としては、ヨコヅナイワシの標本もあります。体長1メートルを超えるヨコヅナイワシは駿河湾で採集された、世界でも個体目の極

めて貴重な標本です。深海魚の特徴から駿河湾の奥深さや多様性を感じもらいたいです。

【市長】 駿河湾が多様な生き物を育む海だということが伝わってきますね。沼津は海が市街地から近く、海岸線も長い。毎年、環境省が行っている海水浴場の水質調査では、沼津の海水浴場が小笠原や沖縄と並び、高く評価されています。

【猿渡】 沖縄と並ぶ評価とは驚きです。沼津の海は本当に特別な海ですね。

【市長】 これほど美しく多様な海が身近にあることは、沼津の大きな魅力であり、まさに宝です。